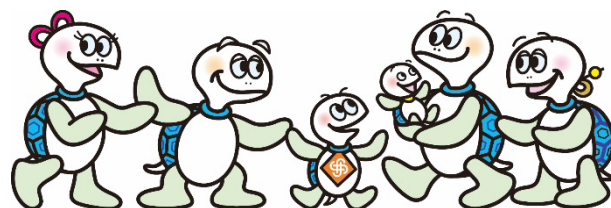


地域で活動する仲間を増やそう！

～地域人材マッチングのてびき～

令和5年6月

神奈川区役所



(第二版)

地域で活動する仲間を増やそう！ ～地域人材マッチングのてびき～

【目次】

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	全体の流れ・・・・・・・・	2
3	実施内容	
	Ⅰ段階 実施に向けた合意形成・・・・・・・・	3
	① 実施メンバーを決めましょう	
	② みんなで目的を共有しましょう	
	③ 予算を考えましょう	
	④ 関係する人たちと話し合いましょう	
	⑤ 個人情報の取扱いには注意しましょう	
	Ⅱ段階 アンケートの実施・・・・・・・・	5
	① アンケートを作成しましょう	
	② アンケートを行うことをお知らせしましょう	
	③ アンケート用紙を配付しましょう	
	④ アンケート用紙を回収しましょう	
	Ⅲ段階 「参加してくれそうな人リスト」の作成・・・・・・・・	8
	① アンケート結果を分析しましょう	
	② 「参加してくれそうな人リスト」を作成しましょう	
	③ 「参加してくれそうな人リスト」を分析しましょう	
	④ アンケート結果を地域に報告しましょう	
	Ⅳ段階 マッチングの実施・・・・・・・・	9
	① 参加してくれそうな人に声をかけましょう	
	② 講習会や交流会などのマッチングの場をつくりましょう	
	③ 参加してくれそうな人に情報提供を続けましょう	
	Ⅴ段階 人と人をつなぐコーディネーターを見つけましょう	11
	① リーダー的に活動できる人（コーディネーター）をさが ましょう	
	② リーダー的に活動する人（コーディネーター）を育て ましょう	
4	アンケートの作成例・・・・・・・・	12
5	事例紹介・・・・・・・・	15

1 はじめに

「地域で一緒に活動してくれる人を増やしたい」

近年少子化や高齢化等が急速に進み、高齢者や子育ての孤立化等、様々な社会的な問題が生じています。

以前から地域では、防災やお祭り等の地域活動、子育て支援活動、高齢者の居場所づくり、サロン活動、配食サービスや食堂など、自治会町内会活動などの様々な地域活動を住民自らの手によって行うことで「住んでいてよかった」と思える地域づくりが進められてきました。

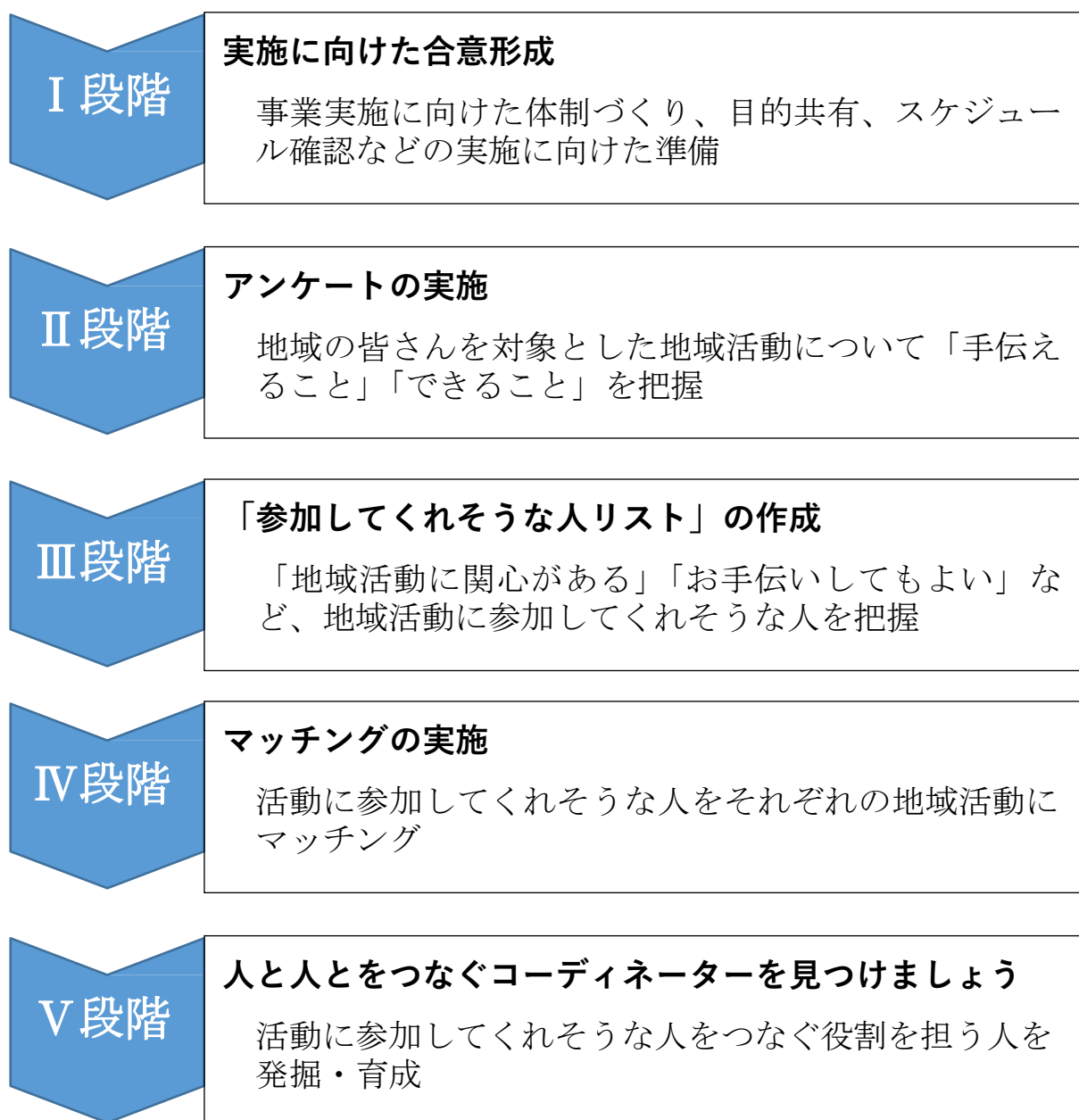
しかし、近年その担い手の高齢化や後継者不足によりこれまでの活動を継続していくことが難しくなっている地域が多く見受けられるようになりました。安心して住み続けられるよう活動を継続してだけでなく、地域の実状にあったかたちで充実させ、私たちのまちをより住みやすいまちにするために、地域活動の担い手を広げていくことがとても大切なことになっています。

地域活動の担い手発掘の手法の一つとして、地域にお住まいの皆さんに、アンケートによって地域活動への参加意向を調査し、地域の様々な活動に関心を示してくれる人材を掘り起こし、実際の地域活動に繋げていく方法があります。（神奈川区役所では「地域人材マッチング」と呼んでいます）

この「地域人材マッチングの手引き」は、神奈川区役所でこれまで実施してきた地域人材マッチング事業の経験から、そのノウハウや事例をまとめたものになります。

アンケートを実施する際のポイントや、アンケート実施後のマッチングの事例など紹介しておりますので、ご自身の自治会町内会で担い手発掘のためのアンケートを実施する際に、ぜひご活用ください。

2 全体の流れ



3 実施内容

Ⅰ 段階 実施に向けた合意形成

地域活動の担い手不足を解消することを目的にマッチング事業を行うことを自治会町内会で決定し、実施体制やスケジュール、費用負担等について確認します。

① 実施メンバーを決めましょう

アンケート作成のためだけでなく、アンケート実施後のマッチング段階も考えて決めましょう。多くの人の視点、意見があるとよりよいアンケートを作ることができるので、メンバーは5人以上が望ましいでしょう。

自治会町内会の会長や副会長等の役員をされている方だけではなく、民生委員や防災委員、子ども会関係に関わっている方、受け入れる団体の方など、今後関わっていただく方たちにアンケートの作成段階から参加してもらうことで、アンケート実施後のマッチングもスムーズに進められます。

② みんなで目的を共有しましょう

新たな担い手が必要になっている地域活動は何か、何ができる人を求めていくのかを具体的に整理し、現在活動をしている人*が困っていることなどについても聞き、どのように解決していくか一緒に考えていきましょう。何のためにマッチングを行うか、目的を共有することはとても大切です。

また、新たな担い手を 受け入れる体制を準備しておくことも重要ですので、早めに着手しましょう。地域活動に参加してくれそうな人に 誰が、どのように（電話、メール、直接訪問、チラシ投函、SNS など）声をかけていくかなど、早い段階から話し合っておきましょう。

※ 自治会町内会関係、民生委員や児童委員、スポーツ推進員、防災委員、子ども会関係者、子育てサークル、高齢者支援グループ、その他のボランティア活動をしている方たち

③ 予算を考えましょう

実施内容を整理した上で、それぞれ どのくらいの費用がかかるか、誰がどのくらい負担するかを確認しましょう。

(例) 話し合いのための事務費や会場使用料、アンケートおよびアンケート事前周知らし、封筒等の印刷費、郵送料、アンケート作成支援・集計・分析のための委託費、アンケート実施後に行う交流会や講習会のための費用 等

④ 関係する人たちと話し合しましょう

関係機関（地域ケアプラザ、地区社会協議会等）と相談、調整を十分に行い、連携をとりましょう。地域の課題や特徴は、地域にお住まいの皆さんが一番よく理解されていると思いますが、地域ケアプラザや社会福祉協議会、区役所の職員が持っている情報やノウハウも活用してください。これまで気づかなかった新たな発見があるかもしれません。



ポイント! 受け入れの準備をしよう!

現在活動をしている人がどのような課題を感じ、課題解決のためにどのような人を求めているのか、事前に確認しておくことが大切です。各団体がアンケート結果から抽出された地域活動に参加してくれそうな人を受け入れる準備ができているか確認しておきましょう。

⑤ 個人情報の取扱いには注意しましょう

お名前が書かれたアンケートは大切な個人情報ですので、その取扱いには十分注意しましょう。

記入後のアンケートは封筒で密封してもらい、直接受け取るか、会長宅や町内会ポストへ投函してもらおう等、限られた人のみが取扱う工夫が必要です。回収されたアンケートを集計するための業者とのやり取りは簡易書留郵便を利用する等、慎重に取扱いましょう。

集計分析後の個人データについても町内会長等の限られた人のみが取扱うようにし、厳重に管理・保管して下さい。また、会長等の交代があった場合は、個人データの引継ぎを忘れずに行って下さい。

個人情報取扱ルールを定めていない場合は、アンケート実施までにルール制定を検討してください。（ルール例は参考資料集①）詳細は、横浜市HP「自治会町内会における個人情報の取扱いについて」をご参照ください。

【参考】横浜市HP「自治会町内会における個人情報の取扱いについて」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kyodo-manabi/shiminkyodo/jichikai/20170315123439.html>

※ 個人情報保護法の基本チェックリスト（個人情報保護委員会資料より）

- ① 個人情報を取得する時（アンケート実施時）は、利用目的をはっきり決めて、その旨を記載する。

(例)「ご記入いただいた個人情報については、適正に管理し、〇〇町内会の地域活動やイベント等へのお声かけに使用し、それ以外には使用いたしません」

- ② 取得した個人情報は決めた目的以外のことには使わない。
- ③ 取得した個人情報は安全に管理する。
- ④ 個人情報を他人に渡す際は、本人の同意を得る。

II 段階 アンケートの実施

地域の皆さんに向けて、「手伝えること」「できること」を調査します。

① アンケートを作成しましょう

アンケート項目の作成、用紙の印刷等は、コンサルタント等に委託する方法もあります。

地域の皆さんが中心となって、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会等とも連携しながら、地域の課題やニーズは何か、具体的にどんな担い手が必要なのかを考えていきます。必要な担い手を具体的に整理し、地域の皆さんに対して「地域で出来ること」「手伝えること」について質問するアンケートを作成します。



わかりやすさがポイント!

〔見やすさ〕

自治会町内会に未加入の方なども意識して、イラストや写真、レイアウト、字の大きさなどを工夫して、地域活動を知ってもらいましょう。

〔読みやすさ〕

見やすく（文字の大きさや字体、分量）、読みやすく（わかりやすい表現）、回答しやすく（設問数を多くしない）なるように工夫しましょう。

〔イメージしやすさ〕 地域活動はたくさんありますが、できるだけ具体的な内容を記載しましょう。写真などを活用し、これなら一緒にやってみたいと思ってもらうことが大切です。

〔答えやすさ〕

書いていただく個人情報は、必要最小限の項目にしましょう（例：氏名・性別・年齢・家族構成・連絡先電話番号またはメールアドレス）。いろいろ聞きたいところですが、まずは回答してもらうことが大切です。

〔わかりやすさ〕 聞きたいと思う項目より、アンケートの回答を踏まえて、実際にできることを中心に質問項目を考えましょう。

② アンケートを行うことをお知らせしましょう（参考資料集②）

アンケートの作成と並行して、アンケートの目的や方法、実施時期などについて、地域の皆さんにお知らせし、アンケートの回答協力をお願いしましょう。自治会町内会のお便りに掲載したり、チラシなどを作成してお知らせしましょう。

※ お知らせする内容例

- ① 自治会町内会の活動や役員の仕事の紹介
- ② 現在の地域活動の課題（地域活動の担い手が不足していること）
- ③ アンケートの目的（地域活動に参加してくれそうな人を探す）
- ④ アンケートの概要（配付時期、締切日、回収方法等）
- ⑤ 協力をお願い

③ アンケート用紙を配付しましょう

アンケート用紙の配付方法によって、アンケートの回収率や配付の手間、費用などが変わります。地域の皆さんで話し合っ、地域に適した配付方法を決めましょう。

一声掛けながら手渡すと回答率が上がりやすいと言われている一方で手間もかかります。各戸ポストへの投かんの場合は、他の広告物などと紛れてしまわないように目立つ工夫をしましょう。



未加入の方も対象に！？

配付する対象は、自治会町内会に未加入の世帯に配付することも検討してみましょう。今は自治会町内会に未加入でも、同じ地域で暮らしているの、地域に対して同じような関心を持っている人もいます。アンケートを通して声をかけるきっかけができ、自治会町内会への加入に繋がった事例もあります。



アンケートは紙だけじゃない！？

紙によるアンケート用紙の配付・回収だけでなく、アンケートフォームを活用したWEBアンケートを合わせて実施することで、若い人からも多くの回答が期待できます。

④ アンケート用紙を回収しましょう

アンケート用紙の回収方法も、地域に適した配布方法を決めましょう。各戸に訪問して回収すると回収率は上がりますが、配付の際と同様に手間がかかります。どの段階に手間や費用などをかけるか、配付、回収の方法を総合的に考えましょう。

ポストへの投かんの場合は、回答しやすくなるように、できるだけ近くのわかりやすいポスト（町内会館や町内会長宅等）を投かん先にしましょう。郵送での回答は郵送費が発生します。

アンケートには個人情報に記載されていますので、アンケート用紙を密封できる封筒を用意し、ポストは特定の人のみが開閉するようにし、回収したアンケート用紙は集計業者にお渡しするまで封をあけずに厳重に保管してください。



ポイント! 回収も“わかりやすさ”がポイント!

アンケートの回収は、できるだけ手間をかけずに提出できるようにすることが大切です。回収方法がわかりにくいと、回答してくれない方もいるかもしれません。



ポイント! ICT を活用して活動を知ってもらおう!

数年続いたコロナ禍で、地域の活動がストップしてしまい、地域の担い手不足がより深刻な課題になっています。

一方で、地域の情報発信やつながりづくりのツールとして ICT の活用が進んできています。

特に若い世代の方は普段から LINE や Twitter などの SNS、HP などから情報を得ているため、これらのツールを使って活動の情報発信を行い、関心を持ってもらうことで、活動の参加につながる可能性があります。

文章だけではなく、写真や動画を活用すると、具体的な活動のイメージが伝えられて効果的です。

Ⅲ段階

「参加してくれそうな人リスト」の作成

「地域活動に関心がある」「お手伝いしてもよい」等、地域活動に参加してくれそうな人を把握します。

① アンケート結果を分析しましょう

アンケート結果の集計、分析作業は、コンサルタント等に委託する方法もあります。

回収したアンケートを集計し、参加意向の内容や傾向を分析し、参加の可能性を整理しましょう。設問ごとに回答を集計するだけでなく、設問と設問を掛け合わせて集計（クロス集計）することでより絞り込んだ分析をすることができます。また、アンケート結果をわかりやすく整理した資料「アンケート結果概要」を作成しましょう。

(例) 例えば、「お手伝いができる」「興味がある」と回答した『活動分野』と、地域活動に割ける『曜日・時間帯』をクロス集計することで、手伝いをお願いする際に平日と土日のどちらが参加しやすいかなど、『活動分野』ごとに参加しやすい日時を分析することができます。



ポイント!

まずは、全体の傾向を掴むこと!

すぐに活動に参加してくれそうな人がいるか、地域活動に参加してくれそうな人が多くいる活動は何かなど、まずは全体の傾向を把握することが重要です。

② 「参加してくれそうな人リスト」を作成しましょう

リストの作成は、コンサルタント等に委託する方法もあります。

アンケートの分析とあわせて、地域活動に参加してくれそうな人を、関心のある活動分野ごとに整理し、リストにまとめましょう。

(例) 「防災に興味があります」「お祭りのお手伝いが出来ます」等

③ 「参加してくれそうな人リスト」を分析しましょう

アンケートの分析結果から、地域活動に参加してくれそうな人の多い活動分野は何か、分野ごとに参加してくれそうな人の属性を確認しましょう。実際にどのように声かけを行うのか、どのようなことをお手伝いしてもらうかを検討する際に重要になります。

また、個人情報を含む全体のリストは、町内会長等が責任をもって管理し、最小限の必要な情報のみを関係する団体と共有するようにしてください。



ポイント!

人によって声かけの仕方を変えよう!

すぐに活動に参加してくれそうな人に対しては直接声かけを行います。また、防災や見守り等、特定の活動に多くの人に参加してくれそうな時は、講座や交流会等を開催し、活動内容を紹介して直接的な交流の場を設けることが効果的です。

④ アンケート結果を地域に報告しましょう（参考資料集⑤）

「アンケート結果概要」に基づき、班回覧や地域の掲示板などで、地域の皆さんへの報告とお礼をしましょう。そのうえで、これからどのように進めていくのかなどもあわせてお知らせすると、今後の取組にも関心をもっていただけます。

IV段階 マッチングの実施

活動に参加してくれそうな人をそれぞれの地域活動にマッチングします。
関心を示してくれた大切な方々を地域活動に招き入れる最も大切なところです。

① 参加してくれそうな人に声をかけましょう

近所にお住まいの方などのお知り合いの方からの声かけはとても効果的です。お知り合いから声かけをすると、活動への不安が解消されやすくなり、第一歩を踏み出しやすくなります。そのような方がいない場合は、比較的年齢が近い人、同じようなテーマに 関心のある人からの声かけをお勧めします。

声をかける際には、活動への参加の意向をあらためて確認するとともに、アンケートだけではわからなかった「〇〇の経験がある」「〇〇のような活動がしたい」「まちがこうなってほしい」といった想いや「参加したい気持ちはあるけれど、家庭の事情で時間 が限られている」といった その方の事情も丁寧に聞き取るとよいでしょう。ご本人の意向、都合をよく確認しながら、その人にあった役割や参加の方法で少しずつ活動へつなげていきましょう。

地域活動に関心を示してくれた大切な方々です。何人かで分担し、できるだけ早めに連絡を取り、相手の状況をみながら定期的に声をかけていきましょう。



ポイント!

「お礼の手紙」はポイント！（参考資料集⑥）

「地域活動に関心がある」と回答してくれた人に対し、地域活動状況等の「情報の発信」と合わせて、「お礼の手紙」を書きましょう。お知らせやアンケート回答といった一方向のやりとりから、双方向のやりとりに進展させましょう。



ポイント!

相手との関係性を作るのがポイント！

講習会等で活動内容を一方的に説明することは禁物です。活動内容を知ってもらうことは大切ですが、参加してくれそうな人の話を丁寧に聞き、今後どのような形でなら活動に関わってくれそうかを話して みましょう。まずは関係性を作ることが大切です。



ポイント! お願いは「小分け」がポイント!

お手伝いをしてもらう時は、お手伝いの内容・役割を明確にしておきましょう。お願いすることを細分化したり、パートタイム的に短い時間でお願いしたり、「小分け」にするのがコツです。

② 参加意向の比較的高い、お祭りやイベントの場で地域活動をアピールしましょう

地域のお祭りや運動会などのイベント、防災活動など比較的高い参加意向の行事の場で、地域の活動をアピールしましょう。地域の活動があることも知らなかったり、知っていてもいつどこで活動しているかを知らなかったという声も聞こえてきます。多くの人が集まる場は、活動をアピールするのに格好の場です。活動をアピールして多くの人に知ってもらいましょう。

ちなみに、お祭りや運動会では比較若い世代に参加意向が強く、お祭り系以外のイベントでは高齢の方の参加意向が強いという傾向があるようです。

③ 講習会や交流会などのマッチングの場をつくりましょう

参加してくれそうな人が多い分野があれば、既にその分野で 活動をしている人が中心となってその分野に関する講習会 などを開催することが効果的です。また、参加してくれそうな人と既に地域活動を行っている人の交流の場 を用意するものよいでしょう。

講習会では、講座のほかに、活動内容を紹介したり、参加してくれそうな人と既に地域活動を行っている人が意見交換をしたりすると盛り上がります。このように交流を意識すると、同じ課題認識や関心をもった参加者同士のつながりも生まれ、その後の活動への参加のハードルも低くなります。また、将来的には参加者同士の新たな活動グループの立ち上げにつながることも期待できます。



ポイント! サポート役を決めよう!

参加してくれそうな人に寄り添うサポート役を決めておき、常に気にかけて孤立しないようにして不安感を払拭しましょう。また、役割がわかりにくかったり、段取りが悪く戸惑ってしまったら、「もう行かない」ということになってしまいますので、サポート役の方のフォローが効果的です。

④ 参加してくれそうな人に情報発信を続けましょう

今すぐに活動に参加してもらえなかったとしても、「地域活動に関心がある」「お手伝いしてもよい」と回答してくれた人がいつでも参加しやすいように、普段からの声かけや節目での情報提供などを引き続き行い、定常的な関係づくりに心がけましょう。



ポイント!

声掛けは継続して！ICTの活用も効果的！

次の参加へ繋げていくために、行事開催時には毎回「お手伝い募集」のお知らせをする等、緩やかに継続して声かけをすることが大切です。

メーリングリストなどに登録してもらい、メールで一斉にお知らせできると、声掛けの負担が少なく済みます。またチラシに申込み用アドレスにつながる二次元コードを印刷し、気軽にお手伝いの申込みができるような仕組みも効果的です。



ポイント!

マッチングのフォローも忘れずに！

マッチング後、活動に参加してくれそうな人が実際にどれくらい活動に参加してくれているか、それぞれの活動団体に定期的に確認しながらフォローしていくことも大切です。

V段階 人と人をつなぐコーディネーターを見つけましょう

活動に参加してくれそうな人、興味を持っている人は、アンケートを通じて少なからず見つかります。 それらの人をつなぐ（マッチング）役割を誰が担っていくか、ここが大きな課題となることを認識しておきましょう。

① リーダー的に活動できる人（コーディネーター）をさがしましょう

日ごろの活動のなかで、参加者の先頭に立って頑張っている人、周りへの気遣いがある人、など、今後の活動を展開していくにあたってリーダー的な役割を担える人を探しておきましょう。リーダー的な人がいないと、結局現在活動している自治会町内会役員がマッチングのコーディネートをする事になり、なかなか負担軽減につながりません。

② リーダー的に活動する人（コーディネーター）を育てましょう

地域活動の人材育成講座である「神奈川区地域づくり大学校」の卒業生が地域のコーディネーターとなって担い手発掘に活躍した事例もあります。人材育成の場を地域で活用していくことで、次の世代を育てていくことも一つの方法です。

【参考】神奈川区 HP「神奈川区地域づくり大学校」

https://www.city.yokohama.lg.jp/kanagawa/kurashi/kyodo_manabi/kyodo_shien/kanagawadaigakko.html

4 アンケートの作成例 (参考資料集③④)

(1) アンケートの趣旨・目的

地域活動の担い手が不足していること、担い手を探すためにアンケートを行うことを分かりやすく伝えましょう。

自分たちが必要としている人材はどのような人か、目的を明確にしてからアンケートを考えましょう。目的はいろいろ考えられます。

- ◆ 普段の生活の中で困りごとを抱えている人と手助けできる人を結びつけたい
- ◆ 地域の活動（お祭りやイベント）への参加者を増やしたい
- ◆ 地域の活動（お祭りやイベント）の企画や準備などに参加してもらいたい
- ◆ 共通の趣味や運動を通じて仲間づくりをすすめたい
- ◆ 自治会町内会の各種業務に協力してくれる人を探したい
- ◆ 地域の委嘱委員（民生委員、青少年指導員等々）の候補となる人を見つけたい など

(文章例) 地域生活の変化及び多様化により、地域のニーズは非常に多くなっています。子育て支援、高齢者支援、防犯・防災減災などをすすめるため、顔の見える関係づくりが必要です。

そして、それを実施するための担い手が不足しているのが現状です。関わる人が限られており、同じ人がいくつもの担当を兼ねているため新しいことに取り組むにも人材が足りません。手伝える人が気軽に参加できる活動を目指して、新しい人材を発掘するために、このアンケートを実施します。

是非ご回答にご協力ください。

(2) 回収・回答方法

回収のしやすさも大事ですが、回答しやすい方法とすることも大切です。ポストへの投かんによる回収の場合は、受け取りポストを複数箇所用意するなど、回答する人の利便性も必要です。

(文章例) 返信期限：令和〇年〇月〇日（△） 返信方法：ご記入の上、入っていた封筒に入れて封かんの上、各班長または町内会長宅ポスト、自治会回収箱に投かんして下さい。」

(3) 質問項目

質問の趣旨がわかりやすく答えやすい設問を、適切な数で設定することが重要です。地域の皆さんに対し、いろいろと聞きたいことがあるかと思いますが、多くても全体で 10～15 問程度にし、できるだけ選択式で回答できるようにしましょう。どうしても質問数が多くなる場合は、どれくらい時間がかかるか、最初に明記しておくといでしょう。また、丸ゴシックなどの見やすい書体フォントを使用し、表紙を含め、A3 版二つ折（4 頁）程度に収めましょう。

(設問例) 問△ 自治会町内会で行われている活動をご存知ですか。それぞれの活動に○をしてください。また、参加してみたい方は、参加の仕方に○をしてください。

	参加したことがある	知っているが参加したことがない	知らなかった	参加してみたい	
				参加者として	スタッフとして
防災訓練	○				○
夏まつり	○				○
町内会館の清掃			○	○	
地域カフェ		○		○	
見守り活動		○			○

(設問例) 問△ お手伝いしてもいいなと思う地域の活動（行事やお祭り）はありますか。すでにお手伝いいただいている方もご記入ください。（複数回答可）

- ① 自治会町内会の企画・運営（役員、事務局、広報、HP 作成、会計など）
- ② 広報紙配付、掲示板係、庁内パトロール、町内会館の管理
- ③ 防災訓練
- ④ 民生委員児童委員、青少年指導員、スポーツ推進委員、家庭防災員、地区社協など
- ⑤ お祭り、行事のお手伝い
- ⑥ イベント（区民まつり・地域まつり）のお手伝い
- ⑦ その他（ ）

(4) 回答者の氏名、連絡先

声かけする上で必要な最低限の情報（氏名、連絡先など）のみを記入してもらい、必要以上の情報を聞くことは避けましょう。とはいえ、求める人材によっては性別や家族構成を教えていただく必要があることもあります。目的に応じて入手したい情報を吟味しましょう。

(5) アンケート協力のお礼

アンケート文中で、回答してくれた人への感謝の気持ちを伝えましょう。

(文章例) 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
ご意見、ご回答を心よりお待ちしております。

(6) 個人情報の取扱いに関する注意

回答していただいた内容は個人情報です。取扱いには十分注意することをアンケート文中に明記しましょう。

(文章例) ご記入いただいた個人情報については、適正に管理し、地域の活動やイベントへのお声かけに使用し、それ以外には使用しません。

5 事例紹介

(1) 目的を絞ったアンケートの実施

【概要】

神奈川県地域福祉保健計画「かながわ支え愛プラン」地区別計画の推進にあたり、地域でやりたいこと、困っていることについてアンケートを実施。防災、イベントのお手伝いといった既存の活動へのマッチングだけでなく、当初から地区ボランティアセンターの設立を目指していた。

実施にあたっては、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、区役所が地域と一体となって地区ボランティアセンターの体制等について検討。アンケートに「地域活動に関心がある」「お手伝いできる」等と回答してくれた人がボランティアとして参加できる仕組みづくりを行なった。その結果、翌年度に地区ボランティアセンターを設立、アンケート回答者から約 80 名がボランティア登録し、約 100 件の依頼に対応した。

【ポイント】

- ・最初にアンケートを行う目的として「ボランティアセンターの立ち上げ」を掲げており、その趣旨にそってボランティアセンターの仕組みを立ち上げ実現させた。
- ・目的としている「地区ボランティアセンター」に関連する部署として、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、区役所等がアンケートの作成に入る以前から関わっている。

(2) アンケートの回答方法の多様化（紙＋インターネット）

【概要】

通常の紙によるアンケートの配付の他に、インターネットでも回答できるようにしたところ、回答者全体の約 1 割がインターネットによる回答となった。

アンケートの回答フォームについて二次元コードを作成し、町内会の会報で周知した。また、紙によるアンケートと二重回答してしまうことを防止するため、インターネットによる回答は氏名、メールアドレス、電話番号の入力を必須とした。

インターネット回答者のうち、男女比はほぼ半々、年代は、20 歳代から 70 歳以上までの各年代から回答をいただいている。

【ポイント】

- ・インターネットによるアンケート調査では、スマートフォンでも回答できる等、便利であるため、若い方だけでなく全ての年齢層で回答しやすくなっているため、これからは、紙と併せて有効な手段と思われる。
- ・回答後の結果集計においても、紙によるアンケートと比べ、効率的に分析が進められるという利点がある。

(3) 活動につなげる交流会の開催

【概要】

アンケートの結果、読み聞かせに「関心がある」「指導できる」と回答してくれた人と、「子育てに興味あり」「保育士資格あり」と回答してくれた人 62 名に声をかけ「読み聞かせ交流会」を開催し、14 名が参加した。

交流会では、図書館の司書によるボランティア育成の講座を行い、本の選び方や読み方を学ぶとともに、既に近隣でおはなし会活動を行っているグループの話聞き、活動のイメージを広げた。また、小学校で募集する「朝の読書タイム」ボランティアの案内も行った。

参加者と活動者との交流の中で、既に活動しているグループへの参加希望や、これまでなかった新たな活動「高齢者向けお話グループ」を立ち上げることが提案され、その後発足した。

【ポイント】

- ・関心の高い「読み聞かせ」のスキルを習得してもらうために図書館司書を講師に招き、交流会に参加してもらうきっかけとした。
- ・既に活動しているグループに、活動の紹介や参加を希望する人を受け入れる体制を準備してもらった。
- ・活動の場として、活動グループへの参加以外にも小学校でのボランティア活動があることを紹介し、参加者のそれぞれの希望に沿った活動の場を紹介した。
- ・地域におけるボランティア活動全般をサポートしている地域ケアプラザにも参加してもらうことにより、子育てを中心とした読み聞かせ活動だけではなく、これまでなかった高齢者向けの活動を発足することができた。

(4) アンケート後の丁寧な声かけ（手紙＋情報交換会・研修会）

【概要】

アンケート結果から、特に多かった「声掛けや安否確認」「話し相手やちょっとした相談相手」のお手伝いができる」と回答してくれた人に対し、「見守りサポーター※」になってもらえるようお手紙を出した。

「見守りサポーター」を対象とした情報交換会や研修会等を定期的に行い、見守り活動について重要となる介護、認知症、障害、子育て等について学ぶことで活動への不安を取り除いた。また、お互いが顔見知りとなることで「会釈しあう仲」を増やし、継続して参加しやすくなるよう工夫をしている。

※ 見守りサポーターとは 日常生活の中で周囲に関心をもっていただき、ご近所の方との挨拶やちょっと気になることがあれば民生委員へ連絡する方々

【ポイント】

- ・氏名・連絡先を記載して「お手伝いができる」と回答してくれた人全員に、アンケート協力のお礼や今後地域活動等へ参加のお誘いをさせていただく旨のお手紙を出した。
- ・「お手伝いができる」と回答してくれた人をお願いする取組として、周囲にちょっとだけ気を付けること、ご近所や顔見知りになった方との会釈等の普段から実施しやすい小さな行動にしたことで参加しやすくした。
- ・見守り活動に対する責任から不安を強く感じている人が多くいたため、一人で抱え込まずみんなと相談しながら活動することをポイントとし、活動への不安を払拭してもらった。
- ・情報交換会や研修会等を定期的に行うことで、お互いが顔見知りになり、緩やかなネットワークへとつながっている。

(5) ポスティングにより一度に多くのアンケート回答者へ改めて意向と連絡方法の確認を実施（「お手伝い登録票」参考資料集⑦）

【概要】

記名回答者の中で「支え手」として興味を持ってくれた人約 150 人に、改めて「お手伝い登録票」（電話番号・メールアドレス・連絡を取りやすい時間帯を記載）を提出してもらい、意向を確認した。「アンケート当時と状況が変わった」等もあり、約 60 人が登録。行事のお手伝いの声掛けに活用していく。

【ポイント】

- ・アンケートの実施から時間が経過すると、回答者の事情も変わったり、回答内容を忘れてしまうこともあるため、再度意向確認をするのは効果的。
- ・知らない人からの直接訪問や電話は避けられがちだったり、メールは見落とされることが多いが、ポスティングだと依頼する側・される側双方が負担なく、読んでもらえるケースが多い。

(6) 得意なことを活かす地域デビューのきっかけづくり

【概要】

「お裁縫が得意」とアンケートに回答してくれた人に直接声掛けをし、小学校から依頼のあった運動会で使用する小道具の作成協力をお願いしたところ、そのうちの6人が集まり合計約200本を作成した。

同じ得意分野を持つ人達に個別に声をかけ集まってもらうことで、仲間として楽しみながら地域活動に参加してもらうことができた。

【ポイント】

- ・同じ趣味の方達を集めて、地域の行事で必要とするものに特化してお手伝いしていただくことで仲間意識が芽生えやすい。また、自分の活動成果が目に見える形で活用されることで、今後の継続した地域活動へ結びつけるきっかけとしてもらう。

(7) 「教えることができる」「教えてもらいたい」のマッチング

【概要】

アンケート実施の結果、エクササイズを「教えてもらいたい」という人が多くいた。一方で「教えることができる」という人がいたため、双方の希望がマッチングしたことで、地域ケアプラザの場所を利用して教室を新設、サークルとして活動を継続するに至った。

健康づくりの場、地域の交流の場として広く活用されている。

【ポイント】

- ・地域の中で同じ思いを持っている人を結びつけることにより、新しい出会いとつながりが生まれ、健康増進の一助にもなった。
- ・ケアプラザという身近な場所を利用することで、「教えることができる」「教えてもらいたい」という人のマッチングができれば、ちょっとした教室でも実現することができた。

(8) アンケート終了後も継続して地域活性化を考える部会を設立

【概要】

アンケート作成のために専門部会を立ち上げたが、アンケート終了後も引き続き地域活性化を考える場を設けたいと、部会を設立。連合内で各単会のアンケート結果を活用した担い手発掘の事例を共有し、良い事例を取り入れていく。

【ポイント】

- ・ アンケートが終了したあとも、担い手の発掘は引き続き地域の課題であるという共通認識から、アンケートで重ねた議論や顔の見える関係を活かし、地域活性化を中心に話し合える場を、楽しみながら継続している。

～最後に～

「ちょっとなら何か地域のお手伝いをできるけど…」とと思っているけど、自分からは積極的に踏み出せないという方は多くいらっしゃいます。アンケートをきっかけに声をかけ、一人でも多くの新しい仲間を地域の活動に暖かく迎えながら、活動を通して地域の輪をひろげていきましょう。

地域で活動する仲間を増やそう！
～地域人材マッチングのてびき～

発行年 令和5年 6月 第二版

発 行 横浜市神奈川区役所区政推進課
〒221-0824
横浜市神奈川区広台太田町 3-8